

---

# 新しき世界 外伝「防人」

亡霊

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

新しき世界 外伝「防人」

### 【Nコード】

N0664P

### 【作者名】

亡霊

### 【あらすじ】

新しき世界の「あるかもしれない未来」です。  
ネタバレ要素がありますので、ネタバレが嫌な方は見ない方が宜しいと思います。

かつて大陸全土を巻き込んだ戦争があった。

それは唯一つの国が引き起こした大戦だった。

それまでの大陸に住まう人々はそんな大きな戦争など経験したこともなかった。

それでも多くの人々がそれぞれがそれぞれの野望と理想を正義として勇敢に戦った。

犠牲は大きかった。

いくつもの国々が興亡し、大地は血潮に濡れ荒廃した。

その悲惨とも言える戦いの勝者は戦いを引き起こした国とその国の掲げる理想に組した側だった。

その国は突如大陸に姿を現すとかつてない強大な力を持って多くの国を後押しし、対抗する陣営をことごとく焼き払った。

その勢いに当時の大陸をまとめていた一大宗教組織が「聖戦」を唱え真っ向から立ち向かった。

しかし、力及ばず・・・。

栄華を誇った宗教組織も、それに組した強大な大国の大半もその国を止めることは出来なかった。

結果、それら国々は姿を消し、新たな国々がそれに取って変わった・・・。

そんな時代があった。

これは、そんな時代より後の話・・・。

大きな戦争の記憶が人々の中から薄れつつある時代の話。

ー日本領ホードラー自治区シバリア

シバリア市郊外に戦後まもない頃に作られた戦没者共同墓地にして慰霊碑がある。

かつての戦争で戦没した人々の亡骸が、故郷に帰れずにこの地に埋葬されていたのだ。

本来なら故郷へと移送すべきだったが、安らかに眠ったものを掘り起こすのはいかなものか？と言う議論の元に作られた。

そんな戦没者共同墓地にはちらほらと疎らながらも人の姿がある。

かつての戦争の遺族、もしくはここに眠る戦没者によって救われた者、戦友だった者……。

そう言った人々が足を運んでいた。

年に1度の慰霊祭だけでなく、事あるごとに足が運ばれていた

そんな戦没者共同墓地に白髪頭の老人が足を運んでいた

ここに眠るはかつての戦友たち……。

その戦友たちによって生かされた彼に取って、動けなくなるまで毎年足を運ぶことぐらいしかできない。

「皆、久しぶり」

老人は慰霊碑の前でそう呟くと、足元に小さなメダルのようなものを置いた。

「先日ね、あの戦争での戦功と日本への貢献により陛下より賜った勲章だよ」

老人の呟きは少し、寂しそうだった。

その目には涙こそ溢れていないが、その背中が泣いていた。

「でもね、これは私が受け取るのは何か違うんだ。私を生かしてくれた皆こそが手にするべきなんだ」

懐かしいものを思い出した様に老人は微笑む。

「良いから貰っておけ、とかお前は言うだろうけどね」  
ほぼ自身が浮びつつもやはり老人は寂しそうだっ

「だからここに置いて行くよ。私も大分ガタが来ててね・・・多分、ここに来るのは今日が最後になる」

杖を突きながらもしつかりと立ってはいたが、老人は自らの体のことを理解していた。

もう、残された時間はいくばもないことを・・・。

「だから、文句はそっちに言ったときに聞くよ。何、そう遠くない未来さ」

老人は異性費を前に礼をすると、慰霊碑に背を向けた。

『バカだなあ、急いでこっちに来る必要はないからもっとそっちでゆっくりしててくれ』

当時と変わらない憎まれ口が聞こえた。様な気がした。  
その声を始めとして次々と声が聞こえだす。

『慌てなくていいですからね』

『こっちはこっちでゆっくりしてるさ』

『こっちでも案内は任せてください』

『友よ、もっと私たちを待たせてくれ』

『貴方とまた働けるのは楽しみですねえ』

『もっと待たせてよ。その代わり土産話を用意してよ』

『お元気で!』『待たせてもらいます!』『また会いましょう!』

『一同皆貴方と共にあります』

慌てて振り返った老人の目に、一瞬だけかつての戦友たちが見えた気がする。

それは老人の見た記憶の断片かもしれない。幻かもしれない。しかし確信があった。

かつての戦友たちは、まだ老人に頑張れといっているのだ。

「ふふふ・・・この老人をまだ働かせる気かね？」

老人の表情が先程と違い明るいものになる。

「まだまだそっちには行けそうにないね。行ったら殺されかねんよ」  
笑みを浮かべた老人は再び慰霊碑に向かうと現役時代と変わらない  
敬礼をささげる。

それは彼に出来る精一杯の感謝の証だった。

その姿は遠めにも眩しく見えた。

その老人の名は・・・。

## （後書き）

あるかもしれない未来の話、如何だったでしょうか？

思いつきで書いたのでちょっとアレな出来ですがw

ただ、これは「あるかもしれない」話なので、本編がそうなるという保障は全くありませんw

では、また本編でお会いしましょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0664p/>

---

新しき世界 外伝「防人」

2010年11月22日09時08分発行